

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-1

～福島県・栃木県・群馬県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020ガイドブックには「オリンピック聖火リレーは、ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。

オリンピックのシンボルである聖火を掲げることにより、平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体得し、開催国全体にオリンピックを広め、きたるオリンピックへの関心と期待を呼び起こす役目を持っています。

近代オリンピックでは、パリ大会までは聖火はありませんでした。

アムステルダム1928年大会の際に、スタジアムの外に塔を設置し、そこに火を灯し続けるという案が採用されたことが契機となり、現在のような聖火が誕生しています。

2020年の聖火採火式は、古代オリンピック発祥の地ギリシャ・オリンピア市にあるヘラ神殿跡で3月12日に行われ、その後、ギリシャ国内において8日間聖火リレーが開催され、最終日にアテネ市にて行われる聖火引き継ぎ式にて聖火が東京2020組織委員会へ引き継がれます。引き継がれた聖火は3月20日宮城県の航空自衛隊松島基地に到着後、復興オリンピックの観点より、「復興の火」として、東日本大震災被災の3県（宮城、岩手、福島）で順次展示された後、3月26日から移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

東京2020聖火リレーのコンセプトは「Hope Lights Our Way（英語）／希望の道を、つなごう。（日本語）」です。支え合い、認め合い、高めあう心でつなぐ聖火の火が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らし出します」と記載。

オリンピック終了後の8月25日～9月6日に開催のパラリンピックの聖火リレーについては、オリンピック聖火リレーコースの紹介後にお話します。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話しました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されます。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

平野寅次郎の「寅さん歩」も映画公開50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋のお話をしたいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる予定の月日で、聖火リレーコースはスタートとゴールの予定地です。

〔福島県〕 2020年3月26日～28日

聖火リレーコースは3月26日 楯葉町～南相馬市、3月27日 相馬市～会津若松市、3月28日は南会津町～郡山市です。

復興オリンピックの聖火リレーのスタートは福島県双葉郡楯葉町のJビレッジです。1997年(平成9年)からサッカーのナショナルトレーニングセンターとしてサッカーの聖地でしたが、東日本大震災による福島第一原発の事故で2011年(平成23年)3月15日から全面閉鎖、2018年(平成30年)9月8日新しい全天候型施設として再開しています。



寅次郎、2002年(平成14年)4月「第4回ふくしま吾妻山麓ツーデーマーチ」および2005年9月(平成17年)「第1回岳温泉あだたらツーデーウォーク」で福島県を訪れています。

写真右は安達太良山です。吾妻富士の山腹に春を告げる残雪の芸術「雪うさぎ」も見えました。高村光太郎の妻智恵子の言った「ほんとうの空」のもとでウォークを楽しみました。



映画の寅さん、福島県とは縁が薄く、わずかに第36作「男はつらいよ 柴又から愛をこめて」の旅の始めで会津若松市国鉄只見線 会津高田駅に登場、柳津町で会津下駄を買おうと円城寺の縁日に顔を出しています。第36作の内容は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー18」をご参照ください。聖火は栃木県に引き継がれます。

【栃木県】 2020年3月29日～30日

聖火リレーコースは3月29日足利市～那須烏山市、3月30日は那須市～宇都宮市で日光市も通過します。

寅次郎、2005年(平成17年)9月に前日の福島大会を歩いた後、ツアーバスで日光へ到着し「日光ツーデーマーチ」に参加しています。



日光霧降スケートセンター特設会場がスタート・ゴールで世界遺産に登録の日光東照宮(写真右上)、日光輪王寺、日光二荒山神社周辺の歴史・文化の道を歩きました。大会関係者の配慮で神橋も無料で渡ることが出来ました。

途中からは雨のずぶ濡れウォークでゴール。近くのホテルの露天風呂で温まり、食べるチャンスを失った大会の幕の内弁当を露天風呂内で裸で食べる貴重な体験もしました。コース途中の国土交通省日光砂防事務所での抽選では流木や採木から生まれた炭を、ゴールの抽選会では泥付き大根が当りました。大荷物でしたがバスツアーなので大助かりでした。

日光は寅次郎、中学生での初めての1泊修学旅行の地で夜のまくら投げも初体験でした。東照宮での記念写真もレインコート姿だったのを思い出して、「日光は雨が似合う」と納得した寅次郎でした。

映画の寅さん、1993年(平成5年)12月公開の第46作「男はつらいよ 寅次郎の縁談」で烏山に足跡を残しています。画面の撮影協力に栃木県烏山町とありましたので映画の始めでバスを待っていた寅さんが嫁入り行列にお祝いの言葉を言うシーンだと思います。でも第46作のマドンナ葉子(松阪慶子)との恋の舞台は香川県なので、話の詳細は寅さん歩「聖火リレー5 香川県」でお話します。聖火は群馬県に引き継がれます。

【群馬県】 2020年3月31日～4月1日

聖火リレーコースは3月31日 館林市～前橋市、4月1日 渋川市～高崎市です。富岡製糸場(写真右)のある富岡市も通過します。



寅次郎、1999年(平成11年)10月開催の「第7回高崎観音だるまツアー」に参加し、以降4回連続参加しています。

初参加では前泊をして40kmを歩きましたが、20kmコースならば藤沢から始発電車で間に合います。又東京から新幹線を使えば30・40kmコースに間に合いました。だるま発祥の地 少林寺を訪ね、烏川や碓井川の清流沿いの秋を大いに感じながら歩きました。

翌日は緑多い観音丘陵を妙義や赤木の連山の絶景を見ながら白衣観音まで歩きました。昼食ポイントではボランティアのご婦人たちの手作りの漬物、梅干しが疲れを癒しました。特に第7回の40km挑戦では最初のコンビニでお弁当を買い忘れ、山に入っしまい給水ポイントの漬物と梅干でゴールした苦い体験をしました。第8回大会では高崎自然歩道(石碑の道)での



立ち並ぶ万葉の恋歌や黄門様も歩いたと言う山道で歴史を偲んだ思い出もあります。また、大会コースの近くには寅次郎が「ウォーキングで出会った人-7」田嶋利郎さんのお墓があります。寅さん歩「官公庁の食堂めぐり-8」をご参照ください。

映画の寅さん、1980年(昭和55年)8月公開の第25作「男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花」で沖縄にて病気のリリー(浅丘ルリ子)の献身的介護の末、二人は喧嘩別れ、柴又で再会しますが、自分で稼ぐリリーと渡世人の寅さんは結ばれない身で別れます。最後のシーンは群馬県六号村の草軽交通バス 上荷付場停留所で再会の二人のやりとりは絶妙です。寅さん「どこかでお会いしたようですが、お姉さんどこのどなたですか?」、リリー「お兄さんのお世話になった者です。忘れるとは薄情者!」第25作の内容は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へ-1」をご参照ください。

1974年(昭和49年)12月公開の第14作「男はつらいよ 寅次郎の子守唄」の最初のシーンで寅さん、磯部温泉を訪れ、川に帽子を落とし、拾った誰かが案山子に被らせていました。第14作の主舞台は佐賀県ですのでマドンナ木谷幸代(十朱幸代)との恋は寅さん歩「聖火リレー-8 佐賀県」でお話します。

聖火は長野県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝